

研究区分：若手研究

南丹地域における災害準備状況と防災意識に関わる地域格差の解明

高橋 司

保健医療学部 救急救命学科

背景

我が国は、その位置、地形、気象などの自然的条件から、台風、豪雨、土砂災害、地震、津波などによる災害が発生しやすい国土となっている（内閣府 2020）。

防災に関する世論調査（内閣府 2017）において、自分や家族が災害の被害に遭うことを具体的に想像したことがあるか聞いたところ、89.9%が何らかの災害被害を想像したことがあると答えた。その一方、今までに防災訓練に参加・見学した経験を尋ねると、「訓練が行われていることは知っていたが、参加したり見学したことはない」が30.7%、「訓練が行われていることを知らなかった」が24.0%の割合で回答があった。すなわち、国民の大部分が何らかの災害被害を想像しているにもかかわらず、半数以上は実際に防災訓練に参加したことがないことを表している。

来たる災害として注目される首都直下型地震や南海トラフ地震に備え、地域住民の災害準備状況の整備と防災意識の向上は急務である（内閣府 2020）。本研究は災害への備えとしての防災教育をより教育効果の高いものに変容させ、次期災害の被害を軽減しうるものである。

方法

本研究では南丹地域の1市1町各350名の計700名を対象にし、2021年1月から同年2月に無記名自記式質問紙を用いたアンケート調査を行った。

①調査票の作成：先行研究との比較を前提とし、調査票を作成した。②調査対象者の決定：各自治体の選挙管理委員会事務局に申請し、選挙人名簿から系統抽出法により対象者を決定した。③配布方法：郵送での配布・返送により質問紙の配布、回収を行った。④分析方法：回答結果は、EZR Ver.1.54を用いてカイ二乗検定とFisherの正確確率検定により南丹市と京丹波町の差異を検定、解析した。⑤倫理的配慮：質問紙記入に先立ち、書面による調査研究の説明を行った。質問紙記入と返送をもって調査研究への同意を得たものとした。なお、本研究ではp値が0.05未満の場合を有意差ありと示した。

本研究は明治国際医療大学ヒト研究倫理審査委員会より承認を受け実施した（2020-031）。

結果

回答者の属性を示す（表1）。回収実績は700名中208名（回収率：29.7%）であった。このうち、個人属性の設問すべてに回答があった196名（有効回収率：94.2%）を解析対象とした。住宅の所有形態については、京丹波町で持ち家の割合が有意に高かったが、その他の項目では、南丹市と京丹波町で有意差を認めなかった。

質問紙に対する回答結果を示す（表2）。南丹市と京丹波町の総合的な傾向として「地震」、「河川の氾濫」、「土砂・崖崩れ」、「台風等の風災害」の項目が比較的回答割合が高かった。自分や家族が災害の被害に遭うことを具体的に想像したことがある自然災害について（以下：設問1）、「河川の氾濫」の項目では、南丹市の方が有意に回答割合が高かった。また、自分や家族が被害に遭ったことがある自然災害について（以下：設問2）、「河川の氾濫」の項目では、南丹市の方が有意に回答割合が高かった。

考察

設問1、2ともに、南丹市と京丹波町に共通して、「地震」、「河川の氾濫」、「土砂・崖崩れ」、「台風等の風災害」の項目に対する関心が認められた。内閣府の先行調査では、設問1で割合の高い回答は「地震」（81.0%）、「台風等の風災害」（44.2%）、「河川の氾濫」（27.0%）、「津波」（20.4%）であることが明らかになっている（内閣府 2017）。内閣府の調査と比較して、南丹地域の「津波」に対する関心が低いことは、南丹地域が山間部に位置することによるものと考えられる。また、内閣府の調査と比較して、南丹地域の「河川の氾濫」に対する関心が高いことは、2013年の台風18号による南丹市内への記録的豪雨による被災経験が一因になっていることが考えられる（京都府河川課 2014）。2013年の豪雨被害では、京丹波町に比較して南丹市は大きな被害を被ったことが記録されている。このことから、京丹波町と比べて、南丹市が有意に河川の氾濫に関する関心が高かったことが考えられる。

本研究で調査された結果は、自治体ごとの差のみならず、年齢、性別等の個人属性により関心のある災害に傾向があるかを解明できる可能性を含んでいる。より詳細は解析を行うことで、災害準備状況の整備と防災意識に関わる因子を解明することが期待される。

論文及び学会発表

未発表.

表1 回答者の内訳

	南丹市内		京丹波町内		p 値
人数	89	(100%)	107	(100%)	
性別					0.25
	男性	52 (58.4%)	53 (49.5%)		
	女性	37 (41.6%)	54 (50.5%)		
年齢					0.17
	18-19歳	1 (1.1%)	1 (0.9%)		
	20-29歳	4 (4.5%)	4 (3.7%)		
	30-39歳	6 (6.7%)	2 (1.9%)		
	40-49歳	6 (6.7%)	4 (3.7%)		
	50-59歳	7 (7.9%)	15 (14.0%)		
	60-69歳	31 (34.8%)	25 (23.4%)		
	70-79歳	22 (24.7%)	38 (35.5%)		
	80歳以上	12 (13.5%)	18 (16.8%)		
職業					0.73
	雇用者	30 (33.7%)	40 (37.4%)		
	自営業主	12 (13.5%)	20 (18.7%)		
	家族従業者	5 (5.6%)	3 (2.8%)		
	主婦・主夫	19 (21.3%)	19 (17.8%)		
	学生	2 (2.2%)	1 (0.9%)		
	無職	21 (23.6%)	24 (22.4%)		
住宅の所有形態					0.04 *
	持ち家	80 (89.9%)	104 (97.2%)		
	賃貸住宅	9 (10.1%)	3 (2.8%)		
結婚の有無					0.58
	有	71 (79.8%)	89 (83.2%)		
	無	18 (20.2%)	18 (16.8%)		
同居家族の有無					0.42
	有	78 (87.6%)	89 (83.2%)		
	無	11 (12.4%)	18 (16.8%)		

* : $p < 0.05$

表2 被害を想像したことがある自然災害と、実際に被害を被った自然災害

	自然災害について、自分や家族が被害に遭ったことと想像したことが一致している自然災害を選んでください (複数選択可)。			これまでに自分や家族が被害に遭ったことと一致している自然災害を選んでください (複数選択可)。		
	南丹市	京丹波町	p 値	南丹市	京丹波町	p 値
全体 (n)	89 (100%)	107 (100%)		89 (100%)	107 (100%)	
地震	74 (83.1%)	90 (84.1%)	1.00	16 (18.0%)	19 (17.8%)	1.00
津波	2 (2.2%)	2 (1.9%)	1.00	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1.00
河川の氾濫	42 (47.2%)	30 (28.0%)	0.01*	26 (29.2%)	14 (13.1%)	0.01*
土砂・崖崩れ	48 (53.9%)	48 (44.9%)	0.25*	7 (7.9%)	8 (7.5%)	1.00
高潮	2 (2.2%)	0 (0.0%)	0.21	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1.00
大雪	24 (27.0%)	29 (27.1%)	1.00	12 (13.5%)	13 (12.1%)	0.83
火山噴火	3 (3.4%)	1 (0.9%)	0.33	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1.00
台風等の風災害	53 (59.6%)	78 (72.9%)	0.07	23 (25.8%)	34 (31.8%)	0.43
想像したことがない	2 (2.2%)	5 (4.7%)	0.46	2 (2.2%)	1 (0.9%)	0.59
分からない	2 (2.2%)	1 (0.9%)	0.59	5 (5.6%)	7 (6.5%)	1.00
その他	0 (0.0%)	5 (4.7%)	0.07	1 (1.1%)	6 (5.6%)	0.13

* $p < 0.05$